

小学6年1組 英語活動学習指導案

指導者 齋藤 由美子 (T1)

小澤 正則 (T2)

1. 単元名 Let's go shopping. ～もっと英語で話したい！～

2. 授業の構想

(1)

今日は6年生で初めての英語活動の授業がありました。最初は何をするのかな・・・と思っていたら、知っている曲が流れてきました。先生は「英語の歌だけど、きっと知ってるよ」と言っていたけれど、私は英語の歌はあまり知りません。そうしたら、「幸せなら手をたたこう」でした。2回目にきいた時、知っている英語があったら見つけてみようと言われました。すると、ハッピーとかハンドとか知っている言葉が思ったより見つかりました。それからこの曲を歌って英語を覚えました。覚えるときがすごく楽しかったです。それから覚えた英語をそのまま使いました。私は急がずにじっくりやっていたので、9人の人とは自己紹介をしていないけれど、これから覚えた英語を活用できるといいです。(下線加筆)

J・T

これは、6年生になって初めて英語活動をした日のJ・Tの日記である。初めに英語活動に抵抗を感じて不安に思っていたのが、知っている英語の歌に出会ったり、その歌詞の中に自分の知っている英語を見つけていったりする中で、次第に心が溶けていっている様子がうかがえる。本学級では、英語活動を楽しめるようにという願いのもと、語彙を広げる際このように英語の歌で導入し、さらに見つけた単語をリズムボックスから流れる軽快なリズムにのってチャンツをして覚える流れを取り入れている。J・T同様、学級の子どもたちは教室いっぱいに声をあふれさせ、英語を話すことを楽しんでいる。

英語に関わる子どもたちの学びに目を向けてみると、学級の子どもの半数は塾や習い事で英語を学習しており、活動にも積極的に取り組む姿が見られる反面、J・Tのように苦手意識を感じている子どもも少なくはない。もちろん、英語を習っている子どもの中にも、英語は苦手、わからないものと決めつけてしまっている子どももいる。このような子どもたちに、英語を思いっきり楽しんでほしい、覚えなければならないものとしての英語ではなく、「もっと英語を使って話したい！」という思いがわき上がるような英語活動にしたいと願って本単元を構想した。

(2) これまでに第6学年の英語活動では英語で自己紹介をしながら相手にも質問をする活動、好きな物について相手に尋ねる活動等を行ってきた。また、中学校英語科の教員による英語活動も2回実施してきた。これらの活動での児童の姿や子どもたちの日頃の様子、そして、本部会で大事に育てたい力としている「豊かなコミュニケーション能力」を基盤として、本単元では、買い物をするときによく使われる表現を疑似体験しながら活動を展開していく。

買い物は、児童にとって身近なコミュニケーションの場面であり、誰もが普段の生活の中で体験したことがあるものである。そのため、英語でのやりとりを行ったとしても実感が得られやすく、相手との関わりを持ちやすい。つまり、コミュニケーション活動を通して体験的に理解を深めやすい教材であると言える。このようなことから、買い物の場面をとりあげることは、積極的なコミュニケーション活動や楽しいコミュニケーション活動が展開しやすく、児童の「豊かなコミュニケーション能力」の育成につながると考える。

本単元では、実際の買い物をするときに近い状況をつくることで、子どもたちが積極的に友達と関わり、英語を話す楽しさや英語が通じたうれしさを実感することができると思う。しかし、そこで終わるのではなく、コミュニケーションを図りながら「こういう時は英語で何て言えばいいのだろう？」と

いうように疑問に思ったり、「次はこんなことを英語で言ってみよう」という新たな意欲が喚起されるように活動を工夫しなければならないと考える。

(3) 単元の導入では買い物でよく使う値段の尋ね方とその答え方を買い物ゲームで疑似体験しながら学習を進めていく。買い物ゲームでは店員とお客の両方の役を経験させ、それぞれの立場に立ったコミュニケーションを体験できるようにしたい。また、最初に買い物リストを渡し、それらを購入するのだが、リストの中には色やサイズが違っていたり、お金が足りなかったりして買うことができない品物を意図的に入れておきたい。これにより、児童が片言の英語やボディーランゲージを駆使してでもコミュニケーションを図ろうとする姿勢を引き出したり、英語で何と言えれば伝わるのだろうかという疑問に思ったり、そして、もっといろいろな英語表現を身につけたい、話したいという欲求を引き出すことができると考える。また、授業後ではあるがアンケートを実施し、1次で生まれた思いを次時へつなげたい。

本時は、まず、前時のアンケート結果を紹介したり、前時の買い物ゲームを振り返り、「こんなことを英語で言いたかった」「英語で何と言えればよかったんだろう？」など児童が素直に感じた疑問や欲求をいくつか紹介するところから始めたい。そして、それらの疑問や欲求を一緒に考え、解決してから再び買い物ゲームの活動に入ろうと思う。今回はより実際の買い物に近い状況を作るために児童が自ら制作した物を商品とし、買い物ゲームで購入した商品はそれらを購入した人のものになるようにした。これにより表現の練習をしている(させられている)という面は薄れ、児童の購買意欲も加わり、より実際に近い状態でコミュニケーション活動が展開されると考える。また、前は「こんなことを英語で言えたらいいな」と思っていた英語表現を積極的に使わせながらゲームを展開していきたい。そして、児童の「こんなことを英語で言えるようになってうれしかった」とか「英語でのやりとりができてうれしかった」という気持ちから「もっと英語で話したい!」という気持ちが喚起されるようにしたいと考えている。

3. 活動展開計画 (全2時間 本時2/2)

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	Let's go shopping. ~英語で何て言うんだろう?~ ○カウントゲーム「1~50」 ○買い物表現を練習する。 ○買い物ゲームをする。	1	<ul style="list-style-type: none"> グループでやクラス単位で順番に1~50まで英語で数えていく。 How much is it?とその答え方 It's~, 等の表現を店員役、お客役に分かれ練習していく。 買い物リストにしたがって買い物のやりとりをする。
2	Let's go shopping. ~もっと英語で話したい!~ ○買い物表現を復習する。 ○新しい買い物表現を練習する。 ○買い物ゲームをする。	②	<ul style="list-style-type: none"> 前時のアンケート結果や買い物ゲームを振り返り、感想等を紹介する。 新たに加わった買い物表現を店員役、お客役に分かれ練習していく。 買い物リストにしたがって買い物のやりとりをする。

4. 本時の学習

- (1)ねらい
- ・ 買い物をする時の簡単な英語表現を使いながら、積極的に友達と関わり、楽しく取り組むことができる。
 - ・ こんな時はどんな英語表現を使えばいいのかという新たな疑問が生まれたり、それらを使ったりしてもっとコミュニケーションを図りたいと思うことができる。

(2)展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師のはたらきかけと願い
<p>1. あいさつ</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>T1: Good morning, everyone. S: Good morning, Ms. Saito. T2: Hello, everyone. S: Hello, Mr. Ozawa. T1, T2: How are you? S: I'm fine, thank you. And you? T1, T2: I'm fine, thank you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体でのあいさつが終わった後で何名かの児童に T1, T2 それぞれ英語であいさつをして回り、英語活動に向かう気持ちと雰囲気作りをする。
<p>2. ウォームアップ</p> <p>3. 前時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・値段を安くしてほしいときは何て言えばいいのだろう？ ・違うサイズや大きさの物がほしいときは何て言えばいいのだろう？ ・違う色の物がほしいときは何て言えばいいのだろう？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウントゲームをしながら、英語活動に気持ちを持っていく。(T1) ・前時のアンケート結果を紹介することで、一人の児童の思いを全体に知らせる。(T1) ・Discount, please. や Do you have a big (small) one?, Do you have a red one?などの表現を適宜紹介していく。(T2) ・新しい表現が使えることでより便利になることを伝えると共に、追求して学ぶ姿勢の大切さを伝える。
<p>4. 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>『こんな時英語でどう言うの?』を見つけながら、買い物ゲームを楽しもう!!</p> </div>	
<p>5. 新しい表現を練習する。</p> <p>6. 「買い物ゲーム」をする。</p> <p>デモンストレーションをし、活動内容を確認する。</p> <p>店員、お客に分かれてダイアログを練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは区切り、何度か繰り返し、発音に慣れるようにする。(T2)
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>お 客: Hi. 店 員: Hi. お 客: (目的の商品があれば) How much is this? 店 員: It's 100 <i>bibit</i>. お 客: Here you are. (お金を渡す.) 店 員: Thank you. (商品を渡す.)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面設定やゲームのやり方がわかりやすいようにデモンストレーションを提示する。 ・スムーズに言えるように大きな声でモデルを示す。 ・教室を回り、困っている児童には発音や表現が言えるように支援し、コミュニケーションの楽しさを味わえるようにする。 ・困っている児童には声をかけ、適宜アドバイスをする。(T1) ・英語で何と伝えればいいのか質問をしてきた児童を認める声かけをする。(T2)
<p>7. 本時の振り返りをする。</p> <p>今日の活動でがんばったことやうれしかったことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動でがんばっていた児童を紹介しながら、今後の英語活動への意欲を喚起できるようにする。

メ 毛

A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page.